

令和2年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
アカデミック・セミナー	<p>【ディスカッションについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの取り組みに関しては、趣旨を明確にして進める。 ・ディスカッションでは、発言する学生が偏らないように気を付ける。 ・ディスカッションの時間は、進捗具合にあわせ調整する。 <p>【シラバス、ルーブリックについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通科目であるため、シラバスおよびルーブリックから大幅に授業が外れないよう徹底する。
キャリアデザインⅠ	<p>(事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内講義時間について 授業振り返り課題の記入時間、質問などを受け付ける時間も考え、5分前には講義内容を終了させることとする。 ・課題レポートの指示について 課題提示に関しては、作成に困らないよう余裕を持って知らせ、文字数も含め明確に詳細を示すこととする。 ・授業内課題について 内容に合わせて、適当な時間配分になるよう注意を払う。 Zoom投票機能などを使用し、回答の進捗を確認し進めることとする。 ・講義内容について 教科書を活用し、民間企業就職以外の様々な進路に共通する情報であることを理解してもらうとともに、意欲的に取り組めるよう促す。 <p>(食産)</p> <p>この「キャリアデザインⅠ」では、人生100年時代のキャリア形成を考えると共に、自己理解の必要性について伝えてきました。課題ワークやアセスメントツールを活用し、自己分析の方法も提示致しました。また、社会の第一線で活躍されている卒業生など外部講師の方の講話を聴き、職業選択に対して、視野を広げる事ができたかと思われます。</p> <p>コロナ禍での学生生活で不安を感じている様子の学生も見受けられたので、今年度は「4年生との座談会」も設けました。先輩たちの学生生活や就職活動を聞くことで、学生生活のイメージが具体的にできたのではないのでしょうか。最終課題の「キャリアデザインシート(大学編)」では、自身の将来像と今の学生生活を確認し、今後の大学生活をどのように過ごすのかを考えていただきました。</p> <p>一方、最終課題を確認すると、将来像について不透明な学生が多い印象を受けます。2年次の「キャリアデザインⅡ」では、「働く」「仕事」に焦点を当て、将来像を具体化できるようなシラバス構成にしていきます。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
情報化社会と技術	<p>○この授業に関して、良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や資料がとても分かりやすかったです。 ・質問がしやすかった、質問自体をちゃんと拾ってもらえているのが毎回わかってよかったと思います。 ・苦手ながらも一生懸命に取り組むことが出来る内容だった。 ・何度も授業を見返せた。遠隔授業、録画授業の公開によって、復習しやすい環境をつくれたことは良かったと思います。対面授業に戻っても、録画授業の公開は実施する方向で考えたいと思います。 <p>○改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で授業内に練習する時間に対する、テストのレベルが少し高かったかなと感じた。 ・たまに全然理解できない話題が出てくる ・授業の進度が早すぎる <p>情報系の科目は、操作等で進度に個人差が生まれやすい科目です。できるだけ全体のペースを確認しながらすすめています。他の人に比べて遅れていると感じる方は、予習・復習で講義内容についていけるような努力をすることも忘れないようにお願いします。</p> <p>○その他、意見、感想、要望など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エクセルが難しかった。 ・講義後も、レコーディングされたものを繰り返し復習として、見る事が出来るため、とても良かった。 ・コロナ禍ということでオンラインでの実施だったが、Excelの操作で分からなくなり置いていかれてしまうことがあった。できれば対面で実施してほしい。 <p>対面授業になればできるだけフォローできる体制を考えたいと思います。一方で、録画授業などで復習しやすい環境を整えることも考えたいと思います。</p>
English Reading Skills II	<p>①クラス間によって課題内容に差があった。→今回は遠隔講義であったため、通常の対面講義に比べ提出課題が多く、またクラス間に差が生じた。提出課題の内容と量については、クラス間に差が出ないよう教員間で統一したい。</p> <p>②グループのメンバーによってワークの内容や質に差が生じた。→ 毎回グループメンバーを替えていても、グループごとの差はどうしても生じてしまうので、こまめに見回り、積極的な声かけをする等、活動内容が均等になるよう、より一層の気配りを心がげたい。</p>
English Self-Expression II	<p>各担当教員の授業の内容と進め方を統一する必要がありますので、再び担当教員が集まり、確認したいと思います。</p> <p>授業でペアワークがある場合、先生がオンライン機能でランダムに決めることにしますので時々同じパートナーとなります。</p> <p>文法などをあまり気にしなくても良いから多くを語る、間違いは恥ずかしくないということを刷り込んでいきたい。</p> <p>グローバルスタンダードは意見を伝えることであり、ある意味fluencyである。間違えてもいいから多くを英語で語る。これが必要である。これを学生に刷り込むことが大切と考える。何人かがfluencyに向けて、特に講義中に積極的になると、他の学生にモメンタムを与えて良いスパイラルをもたらすと考える。文法などをあまり気にしなくても良いから多くを語る、間違いは恥ずかしくないということを刷り込んでいきたい。</p>
English for Academic Purposes II	<p>引き続き、わかりやすい、技術の身に付く授業を展開していきたい。また、多読のモチベーションを上げることで出来る仕組みづくりを今後は検討したいと考えている。</p>
Extensive Listening	<p>リスニングは楽しい。コツを憶えることで確実に伸びます。特に日本人は曖昧母音を別の音で理解しているためキャッチすることが出来ない。例えば、miraculous。micraculousは「ミラキュラス」と憶えている。これは敢えて書くならば「ムラキュラス」である。「ム」という曖昧母音である。高校までの受験用の音理解から実用上の音理解に橋渡しができるよう、更に「気づき」の用例を増やし臨んでいきたいと思います。新カリキュラムにおいても、どの科目においてもリスニングは関連してくるので、随所で「気づき」の用例を示し、聞き取り力アップに貢献していきたいと思います。</p>
中国語 II	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出方法は具体的な指示を出します ・授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです ・グループワークで各グループ班の参加状況を確認するようにします ・両クラスの学生人数のアンバランスを調整に工夫します ・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めているいろいろ工夫をし続けていきたいと思います ・使用テキスト以外から（中国語の社会・文化）も様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思います。

令和2年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
韓国語Ⅱ	<p>【科目運営について】 今年度の韓国語Ⅱは、オンライン授業が中心であったが、次年度は対面授業となる可能性が高い。しかし、コロナの影響による感染対策の実施が続き、通常の対面授業に比べ、様々な制限が生じることが予想される。その制限により、授業内容および指導の質が低下しないよう、説明の方法・資料の形・学生への配慮などについて、学生の立場から工夫していく。</p> <p>【授業計画について】 来年度も通常とは異なる学習環境を想定されることから、授業計画および到達目標は、実際の授業において学生全体の理解状況を確認しつつ進められるよう設定する。その際、学生の集中力や興味が持続するよう、所定の授業時間を超過することなく、適度なペースとなるよう十分に考慮しなければならない。また、教科書の記述だけにこだわらず、必要に応じて学生の理解を助けるべく、教科書のほかに補助資料などを活用しつつ、補足・解説を加える。語学の勉強において、語彙・文法の理解は無論大事であるが、その背景にある言語文化の理解も大事であることから、日本語との対比およびそれにつながる韓国文化や歴史の紹介・説明も併行して行う。さらに、良好な学習環境をするため、単なる知識の伝達という一方向のものではなく、学生自らが授業に対し興味を抱き、自然に溶け込んでいけるよう常に工夫していく必要がある。学生に対して、同じ目線から教員自ら常にフレンドリーかつ丁寧に学生に接し、時にはその場を和ませつつ、「真剣さの中にも遊び心のある授業」の実施を目指すことで、充実な時間に仕上げていくことを今後も目指していく。</p> <p>【事前・事後学修について】 事前学修用として次回の授業に関する「補助資料」、事後学修用としてその回の授業に関する質問・感想への回答の「コメントペーパーへの回答」の2種類の資料を毎週配信することで、学習内容への理解を助ける。なお、適切に課題を配布し、可能な限り学生1人1人への添削指導を行うことで、学生自らが問題点について正確に認識し、無事に正解にたどり着けるよう支援していく。</p>
ベトナム語Ⅱ	学習意欲、発話意欲を伸ばすために、主教材に頼らずにいろいろな視聴教材（動画、絵教材）を使って授業を行おうと思います。履修生が文字語彙の知識をしっかりと身につけるように、復習時間、小テストの時間、学生の発話時間を増やします。文法についてはできるだけ履修生に予習してもらい、分からない項目は授業の議論で明確にし、要点をまとめるなど、授業時間の使い方を工夫します。習ったものを運用できるという最終の学習目標を到達するには履修生の協力も求められます。
Global StudiesⅡ	One student commented that there was "a slight tendency for the teacher to criticize politics and impose his own political ideas." In the fall of 2020, America had a presidential election. I discussed this topic in class. At no time, however, did I "impose" my political opinions. Indeed, I am unsure what this might mean. I did speak strongly about the importance of voting and encouraged students to participate in the democratic process in Japan.
Intercultural Communication（食産）	<p>1) Webアプリを使って学生同士意が毎週の課題について見交換ができる場を導入する。</p> <p>2) 課題(reading)の読解理解を図る問題を増やすことで、問題（問い）のタイプを増やします。</p> <p>3) 異文化間コミュニケーションの問題を解決するスキルを事業のコンテンツに取り入れる。</p>
日本の歴史と文化（食産）	<p>○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では数値的な改善が見られ、概ね肯定的に評価されているようですので、今後も大枠は維持していきたいと思います。</p> <p>○授業アンケートのコメントに記された範囲では、「歴史を思考する」という目標に達し得ていると判断できます。毎回の講義で実施するアンケートへのフィードバックを継続したいと思いますが、一方その影響で講義に遅れが生じてしまった側面もあります。授業アンケートでもシラバスの遅れを気にするコメントがありましたので、時間配分もしくはフィードバック方法を検討し、授業の進捗の改善を図りたいと思います。</p>
世界の歴史と文化	<p>・ネット環境だったため、学生にとって質疑応答がしやすかったというメリットがあった。今後、対面でも同様な対応ができるように考えたい。例としては、遠隔でオフィスアワーを作ることも考える。</p> <p>・遠隔ではあったが、何人かの学生がカメラを付けて参加してくれていたため、クラスメートの顔を見ながら授業に参加できた学生にとって、安心感があったようだ。社会の状況を見ながら、その変化に対応し、履修生とのコミュニケーションを図れるように、工夫を凝らしていくつもりだ。</p>
東北の歴史と文化	<p>○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では数値的な改善が見られ、概ね肯定的に評価されているようですので、今後も大枠は維持していきたいと思います。</p> <p>○授業アンケートのコメントに記された範囲では、身近な地域から東北の歴史を探る講義前半回の方に、みなさんの関心が集まっているようです。今後も内容の充実を図りますが、一方で東北から日本の捉え直しを図る後半回についても、みなさんの関心が高まるよう、内容の改善を図る予定です。</p>
現代社会と哲学（食産）	哲学の場合は、進度よりも深さを追求することが重要である、と考えていますが、この授業の深度は日本の平均レベルである、と思っています。また、この授業は、哲学のなかでも社会哲学という分野に特化した内容を扱っています。つまり、ある哲学者を取り上げた場合、その主義・主張の一部を論じているに過ぎません。それでも、それなりの情報量ではなかったかと思います。そして、質・量ともに、この授業が提供する情報を処理することができて初めて大学生の名に相応しい、とも思っていますが、この点に関しては、レポートの論述問題の水準を拝見するに、大いに満足しています。引き続き、優秀な学生の受講を祈念いたしております。
人と宗教（食産）	この授業は宗教にある程度興味関心がないと時間を浪費するだけになると思われるので、受講の際にはよく考えて選択してください。また「何を目的に話しているかよく理解出来なかった」との意見を頂戴しましたが、この点に関しては、授業の終盤に、小林秀雄の一節を引用して説明したかと思います。とまれ、皆さんの精神の成熟に合わせ、将来、宗教に興味を持っていただければ幸いです。
心理学（食産）	<p>授業担当者は変更になるが、興味・関心をひく内容の授業を引き継いでいく。</p> <p>質問を集め、答えていくという形式についても引き継いでいく。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
現代社会の諸相	<p>受講者の地頭よさを考慮して、授業内容を少し難しくしています。離乳食を卒業したい学生向けであることは、初回に申し伝えてある通りです。自由回答を拝見するに「わかりやすい」との書き込みが「わかりづらい」とのそれよりも多かったことは、みなさんにはまだまだ余力がある証拠と嬉しく思います。配布資料には、A4で65頁ほどの文献表が掲載されていますので、今後の学修に役立てていただけると幸いです。最後に、この授業では、例年以上にレポートの出来がよかったことを明記しておきます。</p>
憲法	<p>【良かった点についての自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料がとても見やすく憲法に関する基本的な知識を学ぶことができた点。判例や実際にあった社会的な事件の例の紹介により、興味や関心を持って授業を受けることができた点。 ・実際の判例や語句の説明時に、わかりにくいところを噛み砕いて説明されていた点。 ・レジュメが整理されていて分かりやすかった点。 <p>⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。次年度も引き続き、受講生の皆さんにとって解りやすい授業を心がけます。</p> <p>【改善すべき点についての自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し生徒の活動も交えた授業だったら良かったと感じた。 <p>⇒遠隔授業かつ受講生が多かったので、双方向型の授業が難しい状況でした。しかし、みなさんに質問をして考えてもらう等、双方向とまではいなくても何らかの工夫はできたかもしれず、要改善点です。</p>
社会と経済	<p>全学平均と比較して、あまり高くなかった項目について検討する。「難易・進度の適切性」がその一つである。2020年度は全15回となったため、少し早めのペースで行った箇所もある。今後も全15回となる場合は、シラパスの内容を少し軽減するか、オンデマンド講義も活用するなどして、改善を図りたい。また、「学生自身の授業目標到達度」も平均並みであった。ペースが早めであったことや課題のやり取りがコロナ禍でしにくかったことも原因である。Formsを有効活用するなどして、改善したい。なお、予習・復習の時間が少ないので、復習のための問題演習の指示などを積極的に行いたい。</p>
数理科学（食産）	<p>【この授業に関して、良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生に質問したら分かるまで教えてくれた。 <p>→現状よりももう少し多い人数への質問対応も質を保ったまま可能である印象なので、より多くの学生が質問を受けられる体制・広報していきたい。</p> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書がほしい。 <p>→例年の課題であるが、本講義は学生の状況を見て進行の順序や速度を変化している科目運営ですので、学生の希望に添えていない現状です。科目に特化しない本学の数理系科目ガイドのようなものを作成する方針で準備を進めている。</p>
生命科学（食産）	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。以下に皆さんからのコメントを記します。</p> <p>【良かった点（抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義後のディスカッションによって、様々な分野に興味を持ち、生命科学に対する知識量が増えた点。 ・前記に受けた生物概論で学んだことよりも濃い内容の講義で毎回面白かった。また、講義後のディスカッションというのが新鮮で毎回じっくりと考える機会があった。 ・ディスカッションによって自分では気が付かなかったことについて知ることができ、考えさせられた点。 <p>【改善した方がよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのくらいディスカッションに参加することでどのくらい成績が上がるのか明確にしてもらえたら嬉しかったです。 ・ディスカッションをするのはいいのですが、元々生物について詳しくない人が参加するのは難しいので、評価の割合を高くしないでほしい。 <p>→初回時にディスカッションの評価を詳細に説明します。</p>
環境科学入門	<p>これまで本科目を中心的に担当してきた教員が転出したことで急な内容変更が生じたこと、コロナ禍の状況の下で遠隔実施となったこと、さらには通常形式の期末試験が行えなかったためレポート（全3回）で評価することになり、それが受講生の負担増となったことがアンケートの結果から読み取れます。令和3年度は、新しい陣容で授業に臨みます。シラパスが一部変更され、昨年度までとは違う授業内容にはなりますが、到達目標が変わるわけではなく最終的に身につけて欲しい力はそのままですので、令和2年度の授業アンケートから得られた情報は、新しい担当者にしっかりと引き継がれるようにします。SDGsはじめ環境問題への取り組みは、現代社会では至る場面で重要性を増しています。グローバルな観点で長期的視野に立ち、人類の将来をより良いものに変えていけるだけの力を身につけてください。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
地球と宇宙	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点の自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球と宇宙という壮大なテーマをわかりやすい資料に基づき説明が行われていた点。 ・図やグラフについて、わかりやすい説明をしてくださった点が良かったです。 ・定期的な小テストで学びが定着化された点。 ・レジュメがわかりやすかった点。図と照らし合わせて聞くと理解が深まった。 ・高校の学習にプラスアルファとなるような内容で、為になりました。 ・身近な話題と関連付けてわかりやすい授業にするための工夫がなされていた点。 <p>→ ポジティブな意見をいただきありがとうございます。引き続き授業の進め方を工夫していきたいと思います。</p> <p>【改善点の自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト形式を変えても良いと思った。 ・地学基礎を未履修の人のための補足がもう少し欲しかった <p>→ 高校で未履修の学生にも問題無いような授業を意識していましたが、よりわかりやすい説明の仕方を考えたいと思います。テスト形式は今回はイレギュラーなものですので、対面授業に戻れば通常のテストとして実施したいと思います。</p> <p>【その他、意見、感想、要望等の自由記載】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい講義で、これからの生活でとても為になる講義だった。 ・宇宙の話面白かったです！ありがとうございました！ ・知的好奇心が満たされ、履修した授業の中で一番楽しい授業でした！ <p>→ 今後も、できるだけ知的好奇心を高められるような授業になるよう工夫していきたいと思います。☒</p>
数学概論（食産）	<p>【この授業に関して、良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書的なものがあった。 ・説明が、例えなどを用いるなど大変わかりやすかったです。大変楽しい授業でした。 ・Formsで行った小テストは自分の結果をすぐ見ることができたので、その場で自分の間違いを知ることができ、復習するのにとても役立った。 ・復習プリントがあったこと。 ・演習問題を多く出してくださったこと。 ・新しい数学を学べた点。 ・formsでの小テストがやりやすくて良かった。 <p>→ 前期に遠隔講義用に作成した教材を対面授義用に仕立て直したが、好意的な感想が多く、手間と時間をかけた意義は十分にあった。</p> <p>→ 数学の内容としては高校数学との差別化を理解してくれた感想があったのも励みになる。今後の科目改善上でより意識したい。</p> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題の答えがほしい。 ・説明がわかりづらかったこと。 <p>→ 練習問題については全てについて配布していたので、見落とされたものと思う。一方で紙媒体で配布するのが良いのか、デジタル媒体での配布が良いのか、など学生による部分もあり、前期の「遠隔講義」の方法の取入れの中で、配布物に関する学生へのユーザービリティについて一考の余地がある。</p> <p>→ 説明のわかりづらさについては、質問機会への誘導が足りなかったと結論したい。「良かった点」で述べた通り、「高校数学との差別化」自体の方針は是とする立場であるが、一方でわかりにくさを感じる学生の存在は意識していきたい。</p>
物理概論（食産）	<p>学生の要望として、実験の導入があったために、簡単な実験を実施予定ではあったが、今期は情勢を勘案して見送ることにした。その代わりに、自ら作成したものを含めて動画を閲覧する機会を多くした。今後も同様に進めていきたい。また、機会を見て実験を導入したい。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
基礎統計学	<p>○この授業に関して、良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの様々な検定方法を学ぶことができた。 ・データサイエンスの復習も行いながら、丁寧に教えてくださった点。 <p>○改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間にそれまでの内容を理解できているかのテストを設けても良いと思った。 ・講義室の都合だと思うが、画面に映るエクセルが少し見づらかった。 <p>よりわかり易く、見やすい学習環境を整えることを心掛け、事前・事後学習を促す。また、学生の質疑にはきめ細かく応え、当該科目の重要性を指導し、中間試験などを取り入れ自助努力を促す。さらには、学生の様子を見ながら、必要に応じてコミュニケーションを取り学習姿勢を改善させる。</p>
健康科学（食産）	<p>心理学、食育、医学と立場の違う3名の教員によるオムニバス形式の授業なので、それによるメリット・デメリットがあると思います。</p> <p>健康について様々な視点から学ぶことができたようで、オムニバスの利点が生かされたように思います。</p> <p>遠隔授業でしたが、授業のペースは良かったようです。</p> <p>資料についてもわかりやすいという評価が多く、画面共有による資料の提示が効果的だったように思います。</p> <p>受講学生が多いため、対面授業では静粛さの維持が難しいところがありますが、遠隔授業で行ったことで集中して受講できたように思います。</p>
スポーツ科学（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>今年度は前期が実技科目も遠隔だったため、基礎的な理論の部分は一部重複するため、前期科目を履修した学生は2コマ弱を別メニュー（応用編）で行ったところ、肯定的なコメントをいただきました。</p> <p>本科目は、シラバスの内容をベースに、レスポンスカードの内容等からみなさんの興味関心度の高い話題も柔軟に取り入れるようにしていますが、授業がきっかけで健康づくりの意識が高まったり、個別指導（遠隔）を受けたりする方もおられたことは嬉しく思っています。次々と新しい理論や技術などが出てきますので、それらを踏まえつつ、今後も一緒に健康づくりができることを楽しみにしています。</p> <p>一方、「スライドの穴埋め部分をネット環境等で聞き逃してしまうことがあったので映して欲しかったです。」という意見もありました。遠隔ならではの著作権の問題をクリアするため、また、より対面に近い状態になるよう、スライドと口頭説明を組み合わせるメモをとっていただく形式にしました。聞き逃した部分は個別に質問を受け説明するようにしていましたが、重要な部分は聞き逃しが無いよう次年度以降は工夫していきたいと思えます。</p>
スポーツ実技（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>今期は体育館の大規模改修により遠隔授業となりましたが、「自分に合ったエクササイズなどがわかった。」、「比較的家でもやりやすいサイズであった点」、「遠隔に合わせて、出来る最低限の運動を教えてください」という意見をいただきました。競技スポーツや一般的に運動が苦手でも、工夫次第で自宅などでも楽しく科学的にエクササイズできることを複数の方に理解してもらえたようで嬉しく思います。授業が終了した後も、生活の中に定期的な運動を取り入れつつ、食事、睡眠などの関連も踏まえた「自分に最適な健康づくり」に取り組んでみてください。</p> <p>一方、「体育館が改修中とのことだったが大学の敷地内で空いているスペースで体を動かしたかった。」という意見もその他としてあげられました。コロナの影響で体育館の改修が遅れたため、初回ガイダンスでは実技を対面で行いたい場合は次年度以降の履修を薦めていましたが、今後、他科目との調整がつくようであれば、体育館以外での実施可能性についても検討していきたいと思えます。</p>
体を動かす楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため制限される活動も多々ありましたが、授業評価アンケートでは『よかった点』として、「感染対策にも気を付けながら対面での授業ができた。」、「自分達に合わせて取り扱うエクササイズの運動量や難易度が変わった点」、「個人個人の運動能力の差について理解し、配慮が十分になされていたこと。」等の意見がありました。また、毎回提出してもらったレスポンスシート（Forms）の内容や授業の様子等から、ある程度の満足度、学習成果等があったものと思われれます。特に、遊び要素のあるレクリエーション活動（アクティビティ）を通じて、運動能力レベルや障がいの有無などにかかわらず、工夫次第で誰でも一緒に楽しめることを多くの方に実感してもらえたことは嬉しく思っています。 <p>本科目の終了後も、運動の形式にとらわれず、オリジナルダンス・体操の振付等の経験を活かし、時には自分なりのアレンジを加えながら運動を習慣化し、積極的に健康づくりに取り組んでもらいたいと考えています。</p> <p>一方、『その他』として、「もう少し運動強度をあげてもいいと思った」という意見もありました。同じ種目（運動）でも、運動強度は個人によって感じ方が異なりますので（相対的運動強度）、体の動かし方・使い方、運動継続時間等を調整するよう全体及び個別にアナウンスしていましたが、次年度以降はさらに具体的な説明、指示をしていきたいと考えています。また、体育館の寒暖差は大きいので、気温に合わせて器材の使い方や授業の進め方（変則ルール等）をより工夫して対応したいと思えます。</p>
日本語Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業の際は、双方向コミュニケーションがとれるようにカメラを付けて授業をするように心がける。
日本事情Ⅱ	<p>少人数を生かして学生の授業での発表の場を増やします。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
コミュニティ・プランナー実践論	<p>・コミュニティ・プランナー科目は、概論及び演習（2年前期）・実践論（2年前期）・FW演習（3年前期）で構成され、本講義は中間に位置する。2020年度における講義は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、オンラインを活用した実践者によるレクチャーのほか、学外フィールドワークを実施することができ、省略することなく到達目標を達成することができた。2021年度における感染症の状況も引き続き厳しい状況にあることが想定されるが、得られた知見をもとに、実地での学びを含めて、講義を展開する。本講義では、連携する自治体との綿密な関係性が求められており、次年度もこれまで通りの協力関係が得られるよう、講義準備に努めたい。一方で、オンラインによる実践者のレクチャーは、履修人数の関係から大和キャンパスで実施したものの、実践的学びを深める上では課題を残したことがレスポンスカードの回答結果から判明した。オンライン講義における、グループワークや振り返りのあり方は特に改善を行っていく。引き続き、丁寧に学生に伴走し、プロジェクトの企画やサイトビジット、振り返りに取り組んでいく。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
臨床心理学	<p>自由記述の主なものは以下のとおりです。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問に丁寧に答えていた点 ・具体例を交えて説明していた点 ・とてもわかりやすい点 ・資料がタイトルごとにまとめられていて見やすい点 ・問題をまとめたプリントの配布があった点 ・身近な聞いたことある語句の説明があり、日常生活で気になっていたことを知ることができた点 <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に他の教科の課題をしている人やスマホ操作をしている人などがいて集中しにくかった点 <p>受講者一人ひとりが授業に集中できるように注意喚起を行い、授業環境を改善するようにしていきます。</p>
人間関係論	<p>理解しやすいよう、できるだけ具体例を挙げて説明するよう心がけています。</p> <p>1年次の学生ということで、看護業務についてイメージできるようにしています。</p> <p>人間関係（対人関係）についての知識やスキルは、看護業務だけでなく、日常生活の中でも必要なものです。看護業務との関係については意識して講義していますが、具体的なイメージが持てるよう事例等の工夫を続けていきます。</p> <p>レスポンスカードに書かれた疑問点については、すべて説明することは時間的にできませんが、理解にとって重要なことについては次回の講義の始まりのところで復習も兼ねて説明していきます。</p>
形態機能学Ⅲ	<p>・小テストや期末テストを例年やってたように戻して欲しい。ムードルでやる形の方が今の私達は楽だが、期末テスト等でしっかり全力で暗記する機会が減っていることは将来的な国試のことなどを考えると、今のやり方では不安。</p> <p>回答：</p> <p>コロナ禍で講義15回に時間が限定される中で、より一層日頃の学修習慣を大事にするためにオンライン小テストを重視しました。期末テストを別時間（オンラインも含め）に行うかは、様々な学生の意見を聞きながら検討していきたいと思えます。</p> <p>資料が分かりやすかったです。</p> <p>図が多かったのはよかったが、自分にとっては文による説明も増やしてほしいという点。</p> <p>授業資料に図だけではなく文章での説明を多く載せて欲しい。</p> <p>資料が見にくかったです。図が多くて何の説明なのか理解できませんでした。</p> <p>回答：</p> <p>要点を並べるだけでなく十分に説明ができる内容を含むように資料を限定しながら（それでも多い）図解中心にしました。読み流すのではなく、よく咀嚼して読むための資料です。文による説明も増やすことも検討します。</p> <p>小テストの難易度が極端に高い回があった。</p> <p>回答：</p> <p>全般的に基本的な問題です。概して共通して不得意な分野（特に抽象度が高い分野）があるようです。必要な分野ではあるので勉強してください。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
薬理学	<p>授業資料に文章の説明をもっと増やして欲しいです。 図が多すぎて、見返した際にすぐ講義の内容を振り替えることが中々に難しかった点。 回答： 学ぶことが多いからこそ図が多くなります。これが大事だという点を見るだけでなく、それに関連したことも含め俯瞰的に見るのが重要です。文章では非常に効率が悪く、俯瞰的に見るのが困難です。資料が増えますが、さらに文章を加えていくことも検討します。</p> <p>小テストや期末テストを例年やってたように戻して欲しい。ムードルでやる形の方が今の私達は楽だが、期末テスト等でしっかり全力で暗記する機会が減っていることは将来的な国試のことなどを考えると、今のやり方では不安。 回答： 期末テスト（総合テスト）を行うか、さまざまな学生の意見を聞きながら検討したいと思います。</p>
栄養学	<p>2020年度は、全授業がオンラインでの授業で、一方向の授業に偏ってしまったところが反省点である。例年に比較すると、リアルタイムの授業のレコーディング公開や授業資料の提供などを行ったが、学生は要点をまとめたものを必要としているように感じた。これまで、要点のまとめをこちらから提供するとそのみの学修になってしまうことを懸念して、あえて控えてきたが、単元ごとの小テストや課題についても検討しようと思う。 「栄養学」から日常生活を科学的に見直して考える力を養うことができたらと考える。 2021年度は、さらに基礎栄養学の分野を縮小して、応用栄養学の分野の時間配分を増やしていく方向で検討していきたい。</p>
公衆衛生学	<p>この授業に関して、良かった点</p> <p>先生ごとにまとめの資料があったが、教科書が同じで行っている範囲が分かりやすかった。 とても分かりやすく、内容がすっと入って来ました。 外部の先生からのお話が環境の大切さを理解することができてとても良かった。 外部講師を招いて詳しいお話を聞いたこと 授業資料が簡潔で、見返した時に復習がしやすかった点や、外部講師のお話を聴けたことで飽きずに講義が受けられた点。 外部の先生の話も聴くことができたので良かったです 公衆衛生学の概念から、様々な感染症まで詳しく学ぶことができてよかったです。</p> <p>改善したほうがよい点</p> <p>特になし。 対面か否かの連絡が遅かったこと 時間内に収まらない講義や、内容が最後まで終わらない講義があったため、勉強しにくかった点。 特にありません</p> <p>その他、意見、感想、要望など</p> <p>オンライン授業でも行えたように感じる。 一部の学生の私語が見られて集中できなかった。また、対面授業の時に通学せず、出席カードのみを提出して出席扱いになっている学生がいたことが不愉快だった。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
疫学Ⅰ	<p>この授業に関して、良かった点</p> <p>他の授業に合わせて授業の形態（対面かオンラインか）を合わせてくれたのがありがたかった。 講義ごとに課題があり、毎回の復習に活用することができた。 教科書がおもしろかった オンライン授業にも対応していた点。 祝日の日の授業はオンライン可にするなど、授業携帯が柔軟で、受講しやすかった。 テキストに沿って要点がまとめられていたこと。Teamsを用いて課題提出があったこと。 ない 教材が読みやすいものだった。 授業プリントに授業内容が整理されておりわかりやすかったです。感染症で大変な中、授業を行ってくださりありがとうございました。 毎回問題がでて、どのように問題がだされるのかがわかりやすかった。 講義終了時にメンションされる課題が学修内容の定着に非常に役立ちました。ありがとうございました。 毎週の課題が適切な量で、学習の良い機会となりました。</p> <p>改善したほうがよい点</p> <p>テスト等、実践的な問題の数をもう少し増やして欲しい。 声が小さい</p> <p>その他、意見、感想、要望など</p>
疫学Ⅱ	<p>この授業に関して、良かった点</p> <p>国試形式のテストだったので、国試対策に直結したところがよかった。 7～8回ごとに小テストを行うのは知識の定着にもつながりいいと思った。また、毎回の復習テストもteamsを活用して実施されていたり、遠隔授業を取り入れたりと、コロナにも配慮されていたと思う。 頻繁に小テストをしてくれたのはありがたかった。模試でも疫学は点数が取れるようになった。</p> <p>改善したほうがよい点</p> <p>iPadに記載したものを映すのではなく、計算式などをホワイトボードに記載して説明してほしいと思った。理解を自己学習に頼っているところがあると思う。</p> <p>その他、意見、感想、要望など</p> <p>過去問の解説でよかった ざっくりした説明が多く、先生自身理解しているのか不安に思う節があった。事前にどこを重点的に説明するのか準備してきて話して欲しいと思った。</p> <p>→国家試験への対策は本講義の本来の目的ではないものの、国家試験を目の前に控えている学生にとっては国家試験にかかわる内容は重要視されるようである。「理解を自己学習に頼っている」旨の記述があるが、講義とは本来そういうものと理解している。</p>
疾病論Ⅲ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。課題レポートでもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
代替療法	呼吸法を用いたりラクセッション、アロマの効果を実験しながらの学修は、理論と実践を実験しながら効果的な学習となった。今年度は、teams及びzoomを用いたオンラインライブ講義のため、外部講師の漢方においては講義中心となってしまった。来年度は、漢方においても可能な脈診等の演習を取り入れられるよう外部講師と共に、授業準備をすすめたい。 また、今年度の授業最終日のグループディスカッションについては、履修学生がグループ編成、テーマを決めることで、各学生のニーズに沿った深い内容のディスカッションができた。今後も、学生のニーズや意欲を尊重した授業方法を工夫していきたい。
看護情報学Ⅱ	「情報学＝PCの使い方」という見方が強く、どうしてもPCのスキルに関する学習が多くなるが、特定のスキルの練習を行なってしまうと、それ以外のアプリや機械が出てきたときに利用できなくなってしまうことを危惧する。特定のアプリに依存するだけでなく、情報機器の仕組みなど普遍的な知識やスキルの教授を増やすべく、検討を進めたい。
看護実践論	新型コロナウイルス感染症の影響により授業計画の変更を余儀なくされましたが、関連科目間での調整によりほぼ計画通りの授業を行うことができました。感染予防対策をしっかりと行っていたことが演習時の学生の安心感につながっていましたので、継続して感染対策を徹底し科目運営していきたいと思えます。また、感染対策として行った3クラス開講は教員からの十分な指導につながっていたため、継続していきます。ジグソー法による学習では教員によるまとめが不足していましたので、2021年度の授業計画ではまとめの時間をとるように変更しています。
ライフステージ看護学概論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、小児看護、成人看護、老年看護の各領域を専門とする教員3名で担当しているが、各期の特徴の理解に加えて、人の一生としての一連の成長発達過程やそれらに影響を及ぼす要因等について、実感をもって理解する機会となるよう高齢者との交流会を位置付けている。一定の効果が見られることから、今後も継続していきたい。 ・各領域の学習内容に適した教科書の選定とともに、電子教科書の導入についても継続して検討していく。老年期の電子教科書は2年次3年次と継続して使用し、オリジナルの動画を収納できるので、さらに学生が使いやすいように工夫していく。 ・小児期は、前期の「人間発達学」での学修内容との関連が特に深いことから、事前学習として課題を課して復習の機会を設ける、知識の定着状況を学生と共に確認するための発問を多く取り入れる等により、各科目での学修内容を関連付けながら学ぶことの意味を実感できる機会を作っていく。事前・事後学修時間の確保にもつなげていきたい。また、配布された資料から何が読み取れるか等について、学生への質問を投げかけながら進め、資料に書き込めるスペースを取るなどの改善を図っていく。 ・ループリックについては、授業開始当初のみならず、課題レポートを提示する際にも再度説明し、活用方法を指導していく。
地域看護学概論	「授業マナー遵守への配慮」「授業計画のわかりやすさ」「難易・進度の適切性」は平均よりも高かった。国試問題を活用することが学生の関心を引いたことは良かった。一方、地域看護学は必修科目として、看護職の基礎的な知識・技術に必要な内容として組み立てているが、保健師に向けた講義という印象という自由記述があった。看護基礎教育における地域看護学の重要性について詳しく説明し、看護職にとって必須の地域看護学の内容について強調していきたい。
家族看護論	評価は概ね良好であった。毎年取り入れている劇作成や発表は今後も継続を考えている。改善点として、「ジェノグラムや円環パターン図を書く機会がもう少しあれば良かった」という貴重な意見が頂けた。今後も学生が主体的に参加できる方法を取り入れていきたいと思う。外部講師の講義も好評であり、来年度も取り入れていきたい。
災害活動論	本科目は、選択科目であり、災害看護プログラムに関心のある学生が履修している。そのため、授業評価項目の各平均点は、授業外の学習時間以外、全授業の平均値より、高い値となっている。特に、知識、技術、関心についての得点が高く、学生自身の授業目標到達度の得点も高かったことから、それぞれの学生が、学修内容に対して納得しながら、学びを得ることができていたのではないと思われる。 一方で、授業外の学習時間は、他の項目に比べると、やや低かった。演習等では、事前学習や振り返りの記載等も設定しており、意欲を持って履修している学生が多いことから、授業での学びを、災害看護に関わる課外活動にも活かし、多様な学修の機会が得られるよう、周知していきたい。演習では、引き続きコロナ禍による感染対策が求められるため、学生がより安全かつ効果的に学修できるよう実施方法の工夫を図りたい。
災害看護支援論	本科目の回答平均値は、大学全講義の平均値に比べると、「授業計画のわかりやすさ」「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」以外はほぼ同様または上回っていた結果であった。特に、質問項目の「授業マナー遵守への配慮」「学生自身の授業目標到達度」に関しては、全体平均値よりも高値を示しており、4年生の学習準備状況に沿った授業運営により主体的に学生自身の授業目標到達度が満たされたことが考えられる。今年度は例年と同様に非常勤講師を招聘したが、新型コロナウイルス感染症感染拡大禍において、災害看護の専門家から対面授業で教授されることで、直に高度実践家からの災害看護の考え方を学ぶことができ、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」の向上につながったと考えられる。また、今年度のフィールドワークは被災地域から被災住民を招いて、被災時の体験談や被災地域の活動について、ワールドカフェ形式のグループワークを行った。アンケート結果から、「東日本大震災で実際に被災された方や当時支援をされた方のお話を聞くことができ、とても多くのことを学ぶことができました。このように実際に経験された方の思いを知ること、自身の学びやその後の看護職としてのあり方にとっても良い影響を与えることができたように思います。」という意見があり、演習での取り組みが効果的であったことが伺える。一方で、「授業計画のわかりやすさ」「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」は全体平均値より低値を示していた。「演習の変更点などもっと早くに連絡が欲しかった。」という意見がアンケート結果には見られていることから、新型コロナウイルス感染症拡大に伴った日程変更などに関して、学生への周知がうまく行われなかった可能性がある。掲示物だけでなく、学生に合わせた媒体（メールなど）を考慮して、講義内容の変更を早期に伝える工夫が必要であったと考える。また、複数名の学内教員や非常勤講師でオムニバス形式で講義を運営しているため、見やすさやデザインなどを共通認識を得た上で資料を作成することができなかった。そのため、「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」が低下したことが考えられる。次年度以降、授業を担当する教員や外部講師に対して、学生の学習準備状況に合わせた、講義資料の準備や説明を行っていただけるように工夫し、改善していきたいと考えている。

令和2年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
治療看護論	すべての質問項目で平均値を上回り、学修達成感や満足感を得て頂けた。教員も、選択科目でもあり、履修した学生の興味・関心の高さや、課題への取組、回答の内容の質の良好さを感じることができていた。DVD教材やエピソード、事例などを効果的に活用して意見交換したり、考えることの積み重ねであったりしたことで、この点を評価した学生がいた反面、難しさや課題への採点基準が不明確であったという意見もあった。課題に関しては、課題を出すタイミングについて学生と相談したり、ループリックでも配点を含めて採点基準や対象を提示したりしていた。課題の減点については、個別にフィードバックは行わず、返却時に、全員に向けて不足する視点を、Teamsに投稿したり、講義の中で説明したりしていた。個別に具体的な減点内容についてコメントしなかったことで、採点基準の不明確さを感じた学生もいたのだろうと推察する。一方で、分からないこと、不明なことがないか、こちらから毎回問いかけている。大学生には、不明なことは自ら質問して確認するという行動も求められており、減点理由を教員に質問して疑問解決している学生もいることを理解して欲しいと考えている。学生が一所懸命取組んだ課題に対する丁寧はフィードバックは、教員の課題としたい。事前課題・事後課題について、今年度は授業での学生の反応をみながら作っていたため、事前提示できず、負担感もあった様子であった。履修学生人数や学生の関心事をふまえながら授業展開する選択科目であるため、次年度以降も、履修学生と相談しながら設定し、早目に提示したいと考えている。
看護技術論	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンドとのハイブリッド講義により、概念学習の部分を自分のペースで行えるように配慮する。 ・段階的に思考を発展させるために、事前課題で既習事項の確認、事後課題で講義内容の発展学習を行えるように整理する。講義に準拠したテキスト・ワークシートを配布する。 ・オンデマンドの講義部分に、具体的な事例を用いた説明を増やす。 ・今クール同様、レスポンスカードによる質問・感想を求め、講義の中に補足説明、解説を組み込む。
看護援助技術論Ⅰ	授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。自由記述でも、教員の丁寧な指導、アドバイスに対してよいコメントをいただき、2021年度も3クラス開講を継続し、細やかな指導が行えるように運営していきます。ナーシングラボ1の使用については、可能な範囲で使用できる時間を確保し、学生が自己学習できる環境を整えていきたいと思います。
母性看護援助論Ⅰ	<p>昨年度より、指定教科書の内容を中心に据えて、教科書では理解が難しい点や要点について資料を作成しました。これらを連動させて分かり易さを目指し、今年度も資料を改良したつもりです。学生からの「資料がわかりやすく、勉強する意欲につながった」「レジュメがポイントがまとまっていて分かりやすかった」「教科書とレジュメを両方使って学べた」の意見がある一方、「もう少し資料を見やすく作ってください」「レジュメや教科書を何度も行ったり来たりするのが大変だった」とのコメントもありました。また、「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」の評価点が平均より低かったことから、さらに教材と説明については工夫の必要性を感じています。また今年度は、シラバスに教科書のページを記載して学生が授業進行を把握しやすくする工夫をしましたが、これが「授業計画のわかりやすさ」の評価につながったのかと思います。</p> <p>今年度は、covid-19の対応により、例年は少人数でNL3およびNL4で実施していた妊婦体験等の演習ができなくなりました。それでも妊婦診察とNST装着は実施したいと思い大講義室で行いましたが、学生1人ごとの消毒などに時間がかかり、演習が円滑に進められなかったことをお詫びいたします。考えていたように時間配分もできませんでしたので、「後半に行った人たちは何が何だかわからないままでレポートを書いている」「やっていないことをやったことのようにレポートで書くことは難しい」との指摘はもっともなことです。事前に演習資料を配付して理解を求めたつもりでしたが、学生の不公平感に至ったことは最大の反省点です。次年度も制約のある中での演習になりましたら、教員のデモンストレーションを丁寧な説明とともに強化する方向で検討したいと思います。</p> <p>全体には、「授業外の学習時間」を上げることが課題であると認識いたしました。</p>
小児看護援助論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き演習内容や方法の検討を重ね、事例を設定した演習等、翌年の小児看護援助論Ⅱや実習につながる学修の機会を作っていく。また、ライフステージ看護学概論Ⅰ（1年次後期）や小児看護援助論Ⅱ（3年次前期）、ならびに関連科目との連続性や学修の深化、発展を目指した授業計画を立てる。 ・学生がイメージを拡げたり、深めたりできるよう動画等の教材を積極的に活用するとともに、それらを事前学習に位置付けたり、事後学修として活用し、必要な看護を考える機会にするなど、実質的な事前・事後学修時間の確保につなげる工夫をする。
精神看護援助論Ⅰ	自由記載では、授業のわかりやすさ、また、オンデマンド併用への肯定的な意見を多くいただきました。フィードバックから、オンデマンドになった場合にも、授業の質は低下していなかったと考えられましたので、今後、感染拡大状況等から対面での授業が行えない場合には、オンデマンドによる授業を併用していきます。
在宅看護援助論Ⅰ	<p>【コロナ禍での授業展開について】</p> <p>在宅看護援助論Ⅰは、これまで学修してきた専門基礎科目や、基礎看護での病院を想定した看護の学習を基盤に、在宅看護の基礎となる知識や、対象の生活の場において実際にどのような看護が行われているのかを「知る」ということを重視し、授業内容を構成している。DVD等による映像を通しての理解や、外部講師として、日々、多様な対象の看護を実践している訪問看護師の方を招き、講義や講義内での事例検討等を行っている。2020年度は、コロナ禍での授業となり、例年、行っている視聴覚教材を用いてのグループワークや、外部講師との事例検討を通してのグループでの話し合いが難しい状況であった。その中でも、実際、訪問看護師として働いている外部講師からの講義は、訪問看護や在宅看護についてイメージすることや理解につながっていた。引き続き、コロナ禍での授業の実施となるが、実習と同様に、実践の場で活躍している方々の協力を得ながら、コロナ禍においても、現場を感じられる授業展開となるよう、工夫していきたいと考えている。</p> <p>【授業外学習時間について】</p> <p>授業外学習時間が少ない傾向にあることは、在宅看護の科目において継続した課題となっている。在宅看護援助論では、法制度等、知識の定着に繰り返しの学修が必要なものを多くあり、調べながら課題を行う機会を取り入れることで、授業外の学習時間の確保につなげていきたい。</p>
公衆衛生看護マネジメント	国試対策を考慮して12月で終了するため、授業評価の周知ができないことから、回収数は16にとどまっている（周知について工夫したい）。授業計画については、シラバスどおりに実施し、また授業初めにも資料配布して説明しているが、「授業計画のわかりやすさ」の平均値が低い。毎回、配布資料に戻って、授業計画について繰り返し説明していきたい。また、「教材と説明の適切さ」も低い。授業は主にゲストスピーカーであり、自由記述では「実際に現場で働く方に講義いただき貴重な機会に印象に残るものが多かった」と記述している学生もいる。学生の疑問等について、対応できるようにしたい。

令和2年度後期 授業改善計画（看護学群）

科目名	授業改善計画
養護概説	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回のガイダンスにおいて、不測の事態（感染症流行や天候不順等）における授業実施方法の変更があることを説明し理解を得る。 ・養護教諭教育課程におけるその他の専門科目等との関連を確認し、内容の系統性や適切性について検討する。
養護実習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導について、既に学修した内容を実践力に繋げることができるような演習を工夫する。
教職実践演習（養護教諭）	<p>養護教諭となるための学修の総まとめの位置づけになる科目です。</p> <p>これまで学んできた教職科目や養護に関する科目についての知識と、養護実習での経験を結びつけ、養護教諭としてどのような視点で子ども達を育てていくのか、どのような部分に知識や経験の不足があるのかなど、受講学生一人ひとりが再確認していくことがこの演習のねらいになります。</p> <p>受講学生それぞれが養護実習で経験してきたことを共有し、養護実習を通してさらに深めたいと思った部分や不足していると感じた部分を補完していくことができる演習であるよう、受講学生のニーズに沿った演習展開をしていきたいと思えます。</p>
教育課程論	<p>科目担当者が急に変更になりました。前担当者の作成した到達目標・シラバスに沿って授業を行ったため、講義内容の整理等が十分でなかったところがあったと思います。次年度は担当者が専任教員に変更になります。授業の要点や内容の整理等について配慮します。</p> <p>教育について、幅広い視点で考えるきっかけになったと思います。基礎的な教職科目として、教育についての関心を高めることができるよう配慮していきます。</p>
教育相談の基礎と方法	<p>複雑に要因が絡み合っている問題について扱っているので、ポイントを絞ることで問題が単純化されてしまう危険性があるため、ポイントを絞った説明が少し難しいところがあります。</p> <p>レスポンスカードをFormsにしたことで、復習の機会になったようです。</p> <p>講義内で疑問に思ったことなどを把握でき、次回の授業の最初に復習も兼ねて疑問点についても説明を行いました。うまく学修の機会になったようなので今後も続けていきたいと思えます。</p> <p>Formsがしっかり提出できたか不安があるようなので、確認メッセージができるようにしたいと思います。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
事業構想学概論	・講義資料のアップロードが直前になってしまっていたため、早めにアップロードし、次週の予告をして事前学習を促したい。
地域活性化とビジネス	2020年度はオンラインでの開催となった。大人数のクラスのため、一方方向の講義になりがちであるが、ツールを活用しながら、双方向の場面も取り入れるように工夫してみたい。また、多様なテーマの講義があることのメリットが評価されているので、その点は継続していきたいが、地域活性化やビジネスとの関連をより明示した構成になるよう検討を重ねて講義を提供したい。
地域社会・産業とデザイン	<p>【良かった点（自由意見抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン分野について様々なことを学ぶことができた点。 ・デザインについて興味があったので、デザインと社会の様々な関わり方について学べたので良かった。 ・私たちの知る”デザイン”という言葉、時には広義で、時には狭義で捉え、それぞれの立場でデザインを理解するという、自分の見聞を広めることのできる講義だった。 <p>【改善すべき点（自由意見抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題の分量がとても多くかなり負担になっていた点。 ・毎週の課題が重すぎた点。 ・最初、録画や配布資料がなかったため、復習ができなかった。途中、メールで要望してからは徹底された。 <p>【来年度の授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート結果からは全ての項目において肯定的な評価であり、また全授業平均値程度の評価を確保できている。また、期末レポートの評価結果からも、到達目標に対する学生到達度は良好な状況であった。 ・学生の理解度を高めるために引き続き課題を設定するが、その量については最適なものとなるよう調整を進めていきたい。 ・オムニバス授業であり、授業録画や資料配布の有無が統一されていない点が指摘されており、今後、できる限り改善を図っていきたい。
法学概論	<p>法学の基礎科目として、配当年次が遅いため、改善を促している。</p> <p>また、成績評価について、いささか厳しいと感じられるため、成績評価ガイドラインを参考に改善したい。</p> <p>授業は、パワーポイントを利用して展開している。そのため、極論、教材については、そこまで重視されないが、しかし自己学習や参考のため、良書を選択したい。しかし、長年利用した教材が絶版となったため、納得いく教材を指定できないでいる。教材探しと同時に自身での教材開発を模索したい。</p> <p>事前・事後学習が、平均の半数くらいの時間との結果のため、レポート提出を充実させる等、改善を行いたい。</p> <p>定量評価は平均を下回ったが、定性評価の評価が高いため、この授業法を維持しつつ、改善を行いたい。</p>
経営学概論	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値と同等か、やや下回る水準であった。特に、「学生自身の授業目標到達度」では、本科目の回答平均値と全学平均値との乖離が認められた。これは、上述の事前・事後学習時間の不足に起因するものと考えられる。今後は、適切な予習課題、復習課題を課すこととしたい。 ・授業評価アンケートの自由記述では、「説明が詳しくてわかりやすかった」「レジュメに沿った進め方なので、講義内容が理解しやすかった」などの肯定的な意見があった反面、「スライドの変わるタイミングが速く、メモできなかった」趣旨の意見も寄せられた。今後は、話すスピードやスライド枚数に留意したい。
マクロ経済学	マクロ経済学は数式などで考える必要があり、かつ、それが現在の社会情勢とどのような関わりがあるのか知るために重要な科目です。したがって、受講した皆さんからいただいたご意見等を受け止めて今後の授業に生かしていきたいと考えております。
社会調査法	対面講義を行ったこともあり、グループワークで学生同士がオンライン等も活用しながらコミュニケーションも取れたためか、概ね良い授業評価をいただきました。最後の発表も学生の学修の意欲が感じられるものでしたので、私自身も更に良い授業が行えるように尽力したいと思います。良い評価をいただいた点は更に良い評価となるよう今後も考えて行きたいと思います。
数理計画	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のフィードバックに時間を要したため、早期フィードバックに努めたい。 ・授業中並びに事後の指導を充実させるため、TAの活用等も含め検討したい。
キャリア開発Ⅰ	<p>◆講義内容について</p> <p>遠隔授業対応を含めて、全体的に一定の評価を得られたものと考えます。先輩との対話の場の設定、ニュース提供などについても好評でした。これらを踏まえて、今後はさらに以下のような改善をしたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による影響などを具体的な事例を示し説明することで、将来を描きやすくする。 ・民間企業就職以外の様々な希望進路に共通する情報であることを理解してもらうとともに、意欲的に取り組めるよう促す。 ・教科書を活用し、エントリーシート作成のポイントや注意点など、具体的な指導も取り入れる。
キャリア開発Ⅲ	受講学生の視点から、ニーズが強いと思われるものにフォーカスし、特に下記3点の改善に注力したいと考えます。

令和2年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
価値創造デザイン演習II	<p>アンケートへの協力ありがとうございます。</p> <p><よかった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画制作の資料に関して、毎週分かりやすい資料を用意して頂いた点。先生の愛を感じました。 ・気軽に先輩や先生に質問できる環境のおかげで、オンライン下での講義でも無理なく取り組むことが出来た。また、講義で使用した資料を再度見返すことが出来るようになっていたことがとても良かった。 ・オンライン上で一番サイトが見易かったです ・説明が毎回わかりやすく、生徒の質問や意見を聞いて丁寧な回答、解説をしていた <p><改善すべき点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容のほとんどが感性デザインコースに近いもののように感じた。 ・最終課題がまとめて出されたのできつく感じた。 ・作品の評価のときに良い作品だけを評価するだけではなく、全員にフィードバックを与えてほしいと思いました。 <p><教員コメント></p> <p>オンライン演習への対応として、資料の充実と、質問のしやすい環境整備に心がけました。今後もこの手法を対面の時も生かせるように授業計画を検討していきます。一方で課題のジャンルの偏りや、提出日、フィードバック方法には検討の余地があるため、引き続きより良い演習になるように計画をします。</p>
経営戦略論	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値と同等か、やや下回る水準であった。特に、「学生自身の授業目標到達度」では、本科目の回答平均値と全学平均値との乖離が認められた。これは、上述の事前・事後学習時間の不足に起因するものと考えられる。今後は、適切な予習課題、復習課題を課すこととしたい。 ・授業評価アンケートの自由記述では、「オンライン講義でも参加型だったため、対面のように聞くことができた」「説明が詳しくてわかりやすかった」「具体的なケースで考える時間が設けられていて実践的だった」などの肯定的な意見があった反面、「資料に空欄が多く、ノートテイキングが大変だった」趣旨の意見も寄せられた。今後は、話すスピードや配付レジュメの作成方法に留意したい。
マーケティング	<p>今回の授業評価アンケートには含まれていないが、講義内で行った「本講義に関するアンケート」では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメを配布してほしい ・講義のスライドの展開が速いため、もう少しゆっくりしてほしい <p>などが含まれていた。レジュメは最新事例が含まれているため、配布できないものもあるため検討が必要。また、スライドの展開については学生の状況を鑑みながら進めるよう努めたい。</p>
ロジスティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度からは2回ずつの隔週講義とすることから、受講のしにくさや毎回の事前・事後学習という点での改善は図れるものと考えている。
マーケティングリサーチ	<p><問題点></p> <ul style="list-style-type: none"> ●シラバス記載の到達目標とのズレ <ul style="list-style-type: none"> ・記載されていた到達目標以外にも新たな目標を設置したが、講師からの説明不足により、何のために学んでいるかが分かり難くなってしまった。 ●進行予定の授業内容の不透明性 <ul style="list-style-type: none"> ・（上記にも起因し）毎回の授業におけるゴール設定（受講者が理解すべきこと）が不透明で、授業における要点が理解し辛い状態となっていた。 ●基礎知識部分の説明が不足 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの実務における資料を多用した一方で、基礎知識部分の説明が不足していた。 <p><2020年後期における課題点></p> <ol style="list-style-type: none"> ①講義の到達目標の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・講義全体を通して受講生に成って頂きたい状態を共有する。 ②目標へのアクションプランを体系化 <ul style="list-style-type: none"> ・①に向けて、具体的に何を学ぶのか？毎回の授業毎のゴールは何かを明確に説明する。 ③基礎知識の説明を追加 <ul style="list-style-type: none"> ・いきなり応用に入るのではなく、基礎知識を説明したうえで、応用編として実務での事例を用いた解説を行う。
eビジネス	<p>21年度に入って、本科目に使用する教科書を新たに出版しており、それを有効活用する。</p> <p>eビジネスの概念が広がっており、それを理解し、自分で考えるためにも企業との連携も踏まえて授業運営を進めていく。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
会計学概論	<p>会計学と簿記論の教育を明確に分けるよう、改善を促している。</p> <p>例題を講義で解説し、演習問題を自己学習時間にあてるスタイルとなっている。そのため、簿記検定を受験する学生とそうでない学生の間に学習時間・学習成果の差が激しく見られる。また、上位級の受験者もいることから、正規の授業では網羅できていない。このため、資格講座の充実をよりはかかっていきたい。</p> <p>定量評価は平均を下回ったが、定性評価の評価が高いため、この授業法を維持しつつ、改善を行いたい。</p>
金融論	<p>・基本的に、授業そのものについては、一定レベルの評価を得たものとする。アンケートのコメントを見ても、基本的な事項に関する理解は相当程度進んだものと思われる。また、遠隔向けに授業の進め方を工夫した点についても、評価してもらえたようである。</p> <p>・従って、現在の方式をよりいっそうグレードアップするような形で講義を進めていきたいと考える。特に、科目の性質上、やや難解と思われる部分については、より丁寧な説明を心がけるようにしたい。授業後の課題についてはボリュームアップというよりも、自ら考える要素を増やすようにしていくように努めたい。</p>
経営組織論	<p>新カリキュラム2年後期科目における、専門領域の最重要基幹科目として、展開科目への基礎として位置づけられる。講義形式について、全てWeb対応から変更されることになる。授業内容、評価方法については、基本的な変更を予定していない。可能な限りの最新理論、事例、教育メソッドを導入することで、大学生が本来求められる知的好奇心をより喚起して、修学意欲（モチベーション）を高水準に持続させて、学生自身が主体的に学習行動を選択するような、真摯な授業の実施を志向するものである。第1回授業においては、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」「評価方法」「評価基準」を配布して確認を指示したものの、対面ではないことで一部の学生が指示に従わず、再三再四の確認と再提出を指示したにもかかわらず、一方的な責任転嫁をする学生も見受けられた。学問に対する継続的取り組みとして「学習メカニズム」の構築支援と、3年以降の「就職活動」の理論的支援に際して、これまで以上に考慮をする予定である。また、事前に「内容を体系化したレジュメを作成する」、事後に「疑問点が解消されたのかを確認する」については、授業の最初と最後に、周知徹底していく予定（各3分程度）である。本授業は大学の専門科目であることを周知させて、不見識な態度・発言、授業の欠席など、学問に対する真摯な取り組みへの逆機能となる事象について、学問への真摯な取り組みを最優先する一貫した対応で実践する。また、「論理的思考力」「文書表現力」の向上を重視して、最終レポートの評価ウェートを80%に維持する。</p>
企業会計	<p>授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、今後は、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示することを徹底していきたいと考えます。</p>
地域資源論	<p>オンラインでの開講となったが、独自に開発していた教材（「地域資源クエスト」）を用いることによって、シラバス上で示していたワークを通常通り実施することができた。この教材は、オンラインを想定して作成したものではなく、開発したツールを全国どこからでも利用できるようWEB上で公開していたのであるが、結果として、オンライン講義に対応できるツールとなっていた。WEBから、ワークシートをダウンロードすることができ、またワークシートの解説を記したマニュアルを整備していたことから、事前学習もスムーズであった。また、ZOOMを利用したゲスト講師の登壇となったが、ディスカッションも問題なく展開し、チャット機能など、全体での議論を促進することも出来た。</p> <p>こうした点が、本講義における高評価の要因と考えられる。一方で、学生による授業アンケートでは、更に高度な内容を求める意見が1通あった。具体的に求めている内容は定かではないが、到達目標を丁寧に説明し、学生が求める講義内容を解析し、講義内容の改善を図りたい。</p>
国土・地域計画	<p>毎回、前回の講義に関する小テストを実施します。また、講義の理解を高めるために毎回配布する事前学習資料について、必ず予習するようにしてください。</p>
地域分析学	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>・講義やスライドがわかりやすく、説明が丁寧であったといった意見に加え、本講義を通じて分析に興味を持ったとの意見を頂きました。引き続き、地域分析の手法についてわかりやすい講義を心掛けたいと思います。</p> <p>・ゲストスピーカーとしてさまざまな機関や団体の方々をお招きして、実際に分析する機会やその作業時間を多く設けたことについて有意義であったとの意見を得ています。引き続き、より実践的な学びと理解を深められるようにしていきたいと考えます。</p> <p>・約90名の履修者が一斉に学ぶ講義であるとともに、遠隔と対面講義を併用して実施していたため、学生間の理解度に対するバラつきは大きいものがあったと感じています。また、2名の教員が前半と後半に分かれて講義を実施しましたが、その繋がりをわかりやすく示すことで、より深い理解に繋がるように今後さらに配慮が必要であると考えます。</p>
都市計画	<p>毎回、前回の講義に関する小テストを実施します。都市計画は法律等の知識の蓄積が必要です。必ず復習してください。</p>
地方自治	<p>初めてのテキストを活用してみたが、もっと活用を進めるために補助教材を検討したい。また、課題のテーマをテキストから選択するようにしたが、テキストにとどまる内容となってしまうため、より広く情報収集を行えるような設定とし、より広範かつ最新の現状把握が行えるように改善したい。</p> <p>オンライン講義であったが、タブレットを用いた板書型の講義としたところ、好評であったため、説明スライドに加えて、板書による動きのある講義を発展させていきたい。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
コミュニティ創造	<p>【自由記載：良かった点】（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学生の発表が聞けてよかった。 ・講義の中で発表する経験ができ、良い刺激をもらった。 <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義は地域創生に向けた理論と実践を学ぶ専門科目であり、ゲスト講師による事例分析を通して、実践的な知を提供できるよう工夫をしていきたい。 ・コミュニティの活性化のプランを構築する演習課題を課しており、これらの考察を踏まえて、実社会に活用できるようなディスカッションをさらに増やしていきたい。 ・グループでの議論を行っているが、より多くの学生に発表の機会を設けるとともに、課題のフィードバックを行い、理解度を高めていきたい。
交通計画	<ul style="list-style-type: none"> ・対面講義になったとしても授業中のディスカッションは難しいと思われることから、それに代わり事前学習を促す方法について考えたい。
商法・会社法	<p>4年生後期配当のため、履修と学習が論文等に反映しづらさが問題である。事業構想と法学の最先端の融合をそれぞれの分野で活躍する実務家を揃え対応している。その知見が、論文等に反映されないのはもったいない。しかし、応用科目として難解ではあるので、4年生前期配当を検討していきたい。</p>
環境心理・行動学	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの評価項目も全学平均を下回っており、中でも「学生自身の授業目標到達度」が低く、受講生にとって十分な満足を得ているとは必ずしもいえない。コメントに「オンデマンドだったため、質問がしづらかった」というものがあり、満足を得られなかった要因の一つであることが考えられる。質問の時間など、双方向のコミュニケーションを確保するなどの工夫をしたい。 ・その一方で、「教材が具体的でわかりやすい」「解説がわかりやすく、興味を持てる内容だった」といったような主旨のものもあり、今後も適切な教材の使用、わかりやすい解説を心がけたい。
景観工学	<p>毎回、講義の内容に関する小テストを実施します。授業は対話を中心に進めますので、必ず復習してください。</p>
環境衛生工学	<p>教室が大きく、学生数は10名前後ということで、対面で授業を実施した。ただ、履修した学生は、2019年度は14名（男性4名、女性10名）であったのが、2020年度は7名（男性6名、女性1名）に半減してしまった。また男女の比率も大きく変わってしまった。</p> <p>学生の方では、わざわざ1授業のために通学することは効率が悪いと考えたり、私の授業の前後の授業がオンラインであるため、それらの授業を履修して、すべてをオンラインにってしまったといった学生が多かったのではないと思われる。また、下宿を引き払って実家から授業を受けることにした学生もいると聞いた。閑散とした校舎で授業をしているのが我々だけという状況であり、学生の授業に対する意欲が前年に比べてやや減退していたように思われた。そこで、私の授業では、環境問題に対して、いかに人間が改善に向けて取り組んできたか、また、大気汚染、水質汚染、騒音問題などでは、取り組みによって成果も出ている。と前向きな話をするように心がけた。</p> <p>学生には、最終講義後、感想を書いてもらった。</p> <p>「環境衛生工学を対面授業にしてくださったため、私は毎週水曜日、友達に会って情報共有や楽しいお話をすることができて有意義な時間を過ごすことができました。他の授業はほぼオンライン授業でずっと家にいるため、環境衛生工学は毎週の楽しみの一つでした。授業の中でも印象に残っているのが、最後の発表です。パワーポイントを使って、人の前で発表するのはほぼ1年ぶりくらいであったため、発表の練習ができていい機会になりました。半年間ありがとうございました。」というように、大多数の学生からは、対面授業にしたことに対して好意的な感想が寄せられた。</p> <p>コロナ禍は簡単には収まらないと思われるが、事業構想学群地域創生学類の学生でもあり、これからも東北人らしく粘り強く人生や社会に立ち向かっていける人材の育成に努めていきたい。</p>
災害の科学（土）	<p>レジュメがあって優しい教え方だったとのコメントをもらった。社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧な説明、講義資料の改善をしていきたい。また、野外調査を行い、環境計測の理解の助けとしたい。</p>
水理学	<ul style="list-style-type: none"> ・受講ノートによる振り返り学習は、一定の成果があったと思われる。 ・どの公式が特に大事なのか、配付された資料でどこが重要なのかさらにわかりやすい資料の調製に努めたい。特に、授業が進むにつれて難易度が上がってくることから、数物系の苦手な学生や文系の学生にとっては、混乱することもあったと思われる。 ・「学生の理解しやすさ」を念頭に講義を進めた。地域科学コースでは水理学は専門基礎といえる科目なので、今後もできるだけ丁寧な授業の進め方に務めたい。 ・今後は、課題としての事前学習の指示を検討し、授業の進め方にメリハリを付けたい。
構造力学Ⅱ	<p>2021年度から、国土交通大臣の指定科目として、一級建築士受験に準拠したシラバスに変更しました。</p>
建築一般構造	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において、回答平均値が全科目の平均値を下回っている。その要因として、コメントにもある「遠隔授業での音声や画質の問題」「1回あたりの講義内容の量」「スライド枚数」「課題の量」などが考えられる。各回の講義内容、資料類の整理など、講義の進め方について検討したい。
施工技術	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において、回答平均値が全科目の平均値を下回っている。中でも「授業計画のわかりやすさ」「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」などについて、コメントにもあるような「解説の冒頭の主旨説明」など、各回の目標や概要を明確にした上で、本題に入るような組み立ての工夫を行いたい。 ・一方では、コメントにあるような実践的な内容について評価を得られているので、今後もさらに充実を図りたい。
構造力学演習	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において、回答平均値が全科目の平均値を下回っている。中でも、「教材と説明の適切さ」の評価が著しく低く、コメントでも「計算の説明のわかりにくさ」「レジュメのわかりにくさ」などが指摘されており、改善を検討したい。
地盤工学	<p>今後も実験と座学を組み合わせて講義を進めたい。実験は太白キャンパスの設備を使わないとできないため、今後受講生の希望なども考慮し、大和キャンパスでもできるようにしていきたい。</p>
メディアプログラミング	<p>授業でも説明しているとおり、プログラミングの本質はコーディングではなくアルゴリズムを作ることにあります。正解のコードを示してしまうと本質を見失った学修をしがちなので、引き続き正解例のコードはできる限り配布せず、受講者が自力で正解にたどり着けるような工夫をしていきます。周りの人と自分の考えを共有して議論することはアルゴリズムを自分で考えるトレーニングとして有効なので、このやり方を引き続き続けます。</p>

令和2年度後期 授業改善計画（事業構想学群）

科目名	授業改善計画
ウェブプログラミング	<p>授業評価アンケートへの協力ありがとうございました。</p> <p><よかった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明が分かりやすく、楽しく学べた。 ・難易度も適切で良かったです ・自分で打ち込んだものがすぐに反映するのでわかりやすかった ・資料説明共に、とてもわかりやすかった。 <p><改善したほうがよい点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中も、授業後も質問にお答え頂き助かりましたが、やはり対面式だと助かると感じました。 ・遠隔だと難しかった。個人的にレイアウトが難しく、悩んでいるという同級生の話も聞いたため、少し詳しく掘り下げてもらうと良い分野かと感じました。 <p>（教員より）</p> <p>最終提出物の傾向から、概ねウェブプログラミングに必要な基礎的な知識と技術を身につけられる講義内容となったと考えています。今後はさらに応用力が身につくよう、講義外で活用できる資料やサンプルファイル配布などの改善を検討しています。オンラインにおけるプログラミング指導は、まだ経験が浅く、もっとより良いツールの活用などの導入なども検討します。</p>
情報構造と可視化	教科書を利用します。これにより事前・事後学修がしやすくなると思います。
情報サービスデザインII	受講生からの評価は極めて低いものでした。この結果を真摯に受け止め、2021年度は内容を大きく変更します。平易なテーマをわかりやすく解説することを目的とします。
空間情報コンピューティング	<p>【良かった点（自由意見抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VRや3DモデリングやUnityなど、今まで使ったことのないソフトや技術に触れるきっかけが出来て良かった。 <p>【改善すべき点（自由意見抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>【来年度の授業改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及び授業評価アンケートの評価点は平均に比べると多くの点で向上しているものの、特に難易度の面では引き続き調整の必要があると認識している。次年度の授業では、学生がより興味をもち主体的に学ぶことができるように、演習課題の見直しと充実を図る工夫を進めていきたい。
生活環境デザイン概論	・本講義は、「生活環境デザイン」の分野で学ぶべき幅広い学問や技術について、その入口のみを概観するものであり、到達目標についても難易度は高いものではないが、「学生自身の授業目標到達度」は低く評価されており、満足度は必ずしも高くないことが推測される。今後は各回の冒頭で、専門科目との関連付けや主旨、要点を外観した上で、本題に入るような組み立てを心がけたい。
生活環境デザイン演習I	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての専門的な演習であり、短時間で多くの様々な内容に取り組まなければならない、難易度が高いと感じている様子や苦勞が伺えるが、複数の教員とTAで担当しているので、時間外の質問や指導なども含めてきめ細かい対応に力を入れていきたい。 ・対面と遠隔システムを組み合わせを行ったことで、個々の学生の状況を把握することができたので、グループの人数構成や編成の仕方なども含めて、より有効な方法の検討と試行を重ねたい。
生活環境デザイン演習III	<ul style="list-style-type: none"> ・対象施設・地区の規模も大きく、用途や機能なども複雑で、かなり難易度の設定は高くなっているが、専門科目としての最終段階に位置づけられる演習科目であり、次年度の卒業研究や卒業設計に向けての素地となる内容であることを理解していただきたい。そのようなねらいを十分理解してもらえよう、ガイダンス時や各講義時に主旨の説明を繰り返して徹底したい。 ・対面と遠隔システムを組み合わせを行ったことで、個々の学生の状況を把握することができたので、グループの人数構成や編成の仕方なども含めて、より有効な方法の検討と試行を重ねたい。

令和2年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食産業学概論	アンケートによれば、担当する教員によってレポートの提出方法が異なり混乱を招くとの意見が複数みられたので、検討してゆきたい。
微生物学	昨年度まで、板書をメインで行ってきた。しかし、本年度は、PPTファイルをあらかじめ配布し、講義を行った。また、休んだ学生のためにも、録画などの処置をとった。しかし、ただ聞いている受け身の講義になっていると感じたので、今後は、メモを取るような練習問題やクイズを配布し、講義に集中させたい。（金内）
環境科学	学生のアンケート回答から、スライドが見にくかったり、声が聞き取りにくかったりすることに対する改善要望があったため、改善する。具体的には、スライドの配色や字の大きさの配慮、講義時のマイク音量の調整、声がしっかり入るようなマイクの使用、適宜聞き取れているかの確認、などを実施して工夫する。受講学生にも、なるべく前の方に座って受講することや、気づいた時に指摘することで協力してほしいと考えている。 また、講義の内容において、難解な部分もあったようであるため、詳しく説明することや、難解だった部分を受講学生から吸い上げて、次回の講義で補足するようなことも取り入れる。 事前・事後学修も含めた講義外での学修を促すように工夫することも考えている。事前・事後学修の内容をもう少し詳しく、多めに提示すること、毎回のコメント・小テストに対する解説時にどのようなことを求めているか、どのように考えてほしいかを丁寧に説明すること、レポートの書き方に関する基本的なことも再確認の意味で講義内で指導すること、最終レポートについては必要に応じて再提出を求めること、などの対応を予定している。
生化学	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割の入れ替えで前期となり、初めてのオンライン講義で、こちら側の不手際や学生側の操作の問題など多くあった。今後は以下の改善を行っていく。 ・パワポ資料や書き込みなどを増やしたが、予習をしておらず、何をやっているかわからない学生がいたようだ。 ・説明を的確かつ自分で考えられるような講義にする。 ・事後レポートを提出させ、事後学習ができるような環境をつくる。
食材生産・加工実習Ⅱ	2020年度はコロナ禍での実施ということで実習場所（食品加工棟）への入場人数が制限され、通常の半分の規模での実施となった。十分な環境を提供できず実習回数が減ってしまったことは残念であるが、受講生の協力もあり実験実習を行うことができた。通常は1班あたり8人前後の配置で行っているが、今年度は4人で対応することとなった。しかしこれにより一人一人が関与度が増え、結果的に理解度が増す効果もあった。改善したほうが良い点では、手袋の準備やレポートの形式についてであるが、前者は次年度には十分に準備できる見込みであり。後者はコピペへの対応も考えながら改善していきたい。
キャリア開発Ⅰ	<p>”キャリア”を考える際に、”自己選択権”と”自己決定権”は大切です。そのためには、自己理解、環境理解が必要となります。</p> <p>この「キャリア開発Ⅰ」では、環境理解である職業理解に焦点をあてたシラバス構成となっています。</p> <p>業界・企業・職種研究のレクチャー後、各自、ターゲット企業を絞り、企業研究発表会をオンラインで実施しました。実際に、各自企業研究を行う事で、業界や企業の見方が深まったと思われます。なお、就職活動のオンライン化も念頭に置き、企業研究発表会はTeamsで実施しました。今後の就職活動の傾向を踏まえながら、講義内容も柔軟に対応していきます。</p> <p>また、就職活動の早期化への対応と、大学生活の2年間を振り返るために、自己の文章化も実施しました。改めて大学生活の経験をまとめる事で、今後の大学生活や職業選択に、現時点で何が必要で、何が不足しているのかを実感できた学生も多かったようです。さらに、「4年生との座談会」を実施した事で、就職活動が具体的にイメージ出来たと思われます。</p> <p>一方、講義配置時間、並びに講義内容について「オンラインでも対応可能では？」という意見も出ております。実際、対面式で実施しているにも関わらず、コロナ禍の影響で、グループワークの実施が殆どできませんでした。対面式のメリットが伝わるような内容や課題ワークを検討致します。講義形式については、大学の方針に従います。</p> <p>就職活動を行う3年次、あるいは将来のキャリア選択に役立つ知識を身に付けられるシラバス構成を心掛けます。</p>
キャリア開発Ⅲ	<p>自信を持って就職活動に臨めるよう、履歴書の書き方、グループディスカッション、面接練習などのノウハウを伝えました。</p> <p>履歴書については、前期「キャリア開発Ⅱ」の最終課題として提出頂いた「自己紹介文」を添削し、皆さんへ返却致しました。この講義で、「履歴書・ESの書き方おさらい」を実施する事で、自己紹介文がさらに改良されたと思われます。</p> <p>また、進路指導員やキャリア担当教員などから協力を頂いたグループディスカッション、面接練習では、実践力を身に付ける事ができたと思います。演習形式で確認できた、個々人の特性について、今後の就職活動サポート体制へ反映できる流れを作りたいと思います。</p> <p>この講義とリンクし、職業選択や就職活動などの相談、履歴書添削、面接練習など、進路指導員が個別に対応しています。今後、学生のニーズを踏まえ、かつ実践的な内容にしていきます。</p>
食材生産経営学	<p>「食材生産経営学」は、何かを暗記するような学問ではなく、考え方や概念を学ぶものだと思っています。その考え方や概念を体得するには、社会人経験が不可欠なのかもしれませんが、学生時代の読書、サークル活動、アルバイトなどでも十分補完できると思います。</p> <p>タクシー運転手の給料の決め方、アイスの販売方法等の実例を挙げた講義が好評だったので、そういった内容を増やしていきたいと思います。また、レポートでは、自分の理解したことをまとめるように指示しているが、自分の理解や考えを文章にできない学生がいます。授業の中で話させることも重要だが、文章を書かせることもこれまでどおり続けていきたい。</p>
アグロテクノロジー	4人の教員でのオムニバス開催形式で実施しています。担当回数が多い伊吹の担当分に関しては、基本的に知識伝達形式の講義とし、確認テストで知識の定着を図っていました。講義で扱う範囲を見直し、今年度は2回をプレゼン形式の講義に充当して、講義で得られた知識を踏まえた主体的な学びを取り入れていく予定です。
農産食品学	<p>毎回受け付けていた質問に対して、講義時間の関係上、十分に答えることができなかったため、来年度下記の項目について継続的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えさせる小テストの継続 ・分かりやすい資料の作成 ・全員プレゼンテーションの継続 ・最新の情報の提供

令和2年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
植物生理学	今年度は例年よりも成績が低い傾向で、定期的な小テストに対しても十分な準備がされていないようだった。授業後は、記憶が薄れる前にしっかりと復習を行い、小テスト、本テストに備えることが必要です。わかつたつもりで終わりにせず、確実に説明できるところまで自主学習をしてほしい。また、次年度は理解度を深めるための参考図書もより多く紹介したい。
付加価値植物性食材生産法	プレゼンテーションを班ごととするが、貢献度の不公平感を解消し、より深く付加価値を考える機会とするため、次の改善を行う。まず班構成をできるだけ少人数とした上で班内の役割を指定し、3教員の分野ごとに役割をローテーションさせる。また、グループワークにおける各班・各自の自己評価を実施し、改善点の提出を求める。 分野ごとの改善としては、病虫害防除分野では他科目でカバーできない害虫分野の専門知識・最新事例の解説を拡充する。育種技術（ゲノム編集）分野では、いくつかの班で遺伝子組換え技術、ゲノム編集技術の事例調査に要する時間が不足していたため、班ごとの事例調査に十分な時間を確保する。育種技術(水稲)分野では宮城県ブランド水稲銘柄を取り上げ学習を進めたが、県内の最新動向や実情に関しての事例学習や考察を行うことは十分できなかった。そこで次年度は、水稲に関する宮城県の最新事例をより深く掘り下げるとともに、付随した専門知識を学ぶことで、実践的考察を深める時間を増やす。
食資源開発学	<ul style="list-style-type: none"> ・授業マナー遵守の配慮が不足しているようであるので、全員が授業に集中できる環境に改善したい。 ・確認テストの実施は学生の学びにプラスになっているので、引き続き実施していきたい。 ・より高い目標に到達できるよう、事前・事後学修を工夫したい。
畜産食品学	アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、期末試験（場合によっては中間試験も）の実施、レポート課題などを行う。 できるだけ双方向な授業を引き続き実施する。
動物生理学	自主的に生理学関連の本を読む、動画を視聴するなど積極的に取り組んでほしい。講義中に有用な図書等紹介しているので、まずはそれを手に取ってほしい。覚えることが多いが、生理学はすべての基礎となる科目なので努力してほしい。引き続き学生の興味を引き出せる講義を心掛ける。
動物衛生学	新型コロナ感染症拡大で、感染症は日常生活を一変させるということが体で理解できたと思う。学生による発表は、自主学習を進め理解をより深めることにつながるため、来年度もしっかり取り組ませる。
付加価値動物性食材生産法	履修学生に対しては、到達目標のうち〔1〕と〔2〕だけにフォーカスするのではなく、〔1〕と〔2〕から〔3〕の目標到達に向けてどのようにアプローチすればよいかを理解してもらうよう授業を改善してゆきたい。
循環型動物生産論	<p>検証：本科目は今年で2年目となる科目であり、実践教育のゲストスピーカーを加えたこともあり、内容についてはシラバス通りにはいかなかった。しかし、さとうみファームの講義が良かったとの意見もあった。また、小テストについては、毎回の講義を復習することができ良かったという意見もあった。全体に全学平均より評価は低いものの、前回よりはかなり高くなった。</p> <p>改善点：今年の結果を踏まえて、またゲストスピーカーの分を追加して、シラバスの内容を整理する予定である。また、自分の内容は草地をベースにした内容で、動物そのものの内容が少ないことから動物系の学生には受けにくい傾向にあると思われる。その辺も踏まえて、シラバスの内容を修正する。</p>
植物生産基礎実験Ⅰ	<p>岩井：今年度は、新たにコンピュータを用いた遺伝情報の解析について実施した。大学でパソコンが必携となっているが、基本的な操作があまりできない学生が多かった。このような状況の中での実習であったことから、理解度があまり進まなかったようであった。次年度以降は、パソコンの基本的な操作等の習得についても取り入れて実習を進めたい。</p> <p>日渡：変異体を用いた遺伝学の基本を理解する実習であったが、遺伝育種学の授業の先取りになるため、理解が不足していると感じられる。そのため理論を実験の前に丁寧に説明する。また、実習の理解を深めるために、理解度チェックや課題レポートをオンライン化、双方向で実施し、知識や技術の定着を図る。</p> <p>木村：コロナウィルスへの対策で、実験室を2つに分けた関係で十分に教示できない所があった。実験操作などは、オンデマンドでビデオを見るようにして、知識の定着を図るようにしたい。</p>
動物生産基礎実験Ⅰ	コロナ禍での実験であったため、授業外での学習時間が少なく、授業内容や授業計画が難しく感じた学生が多く見られた。実験前に課題を出し、実験内容の理解度と高めたり、知識、技術等に役立つための準備を学生自身が行えるよう工夫する。
植物性食材生産実験実習Ⅱ	・教員間で連絡を密にし、本実験実習の意義について理解が深まるようなプログラムを構築する。
動物性食材生産実験実習Ⅱ	時代の要請に合った知識や技術を学べる内容とするため、常に内容が適切であるか検証してゆきたい。
付加価値植物性食材生産実験実習	植物生産科学コースの実験実習として最後の科目であるため、計画立案・実験実施・結果解析と考察について、より主体的に取り組めるよう改善する必要がある。そのため、できるだけ少人数の班構成とし、各班の実験を主体的に計画・実施できるようにする。微生物分野では、試料の選択と計画立案を班ごとに実施し、クラス全体で議論する場を設け、それをもとに修正したうえで実験を進める。育種分野では、組織培養においてコンタミネーションが高頻度で発生したため、当初通りに実験計画が進まない班があった。無菌操作などの基本的な技法を確認しながら、確実に実習を進めるようにする。また、水稲の品種改良として、交配法は欠かせない。本年度は実験に使用する水稲の準備を行うことができなかったため、実施を見送らざるをえなかったが、次年度は材料と方法を検討し、交配実験を実施する。
付加価値動物性食材生産実験実習	時代の要請に合った知識や技術を学べる内容とするため、常に内容が適切であるか検証してゆきたい。
分子遺伝学	動物遺伝育種学を履修していなくても理解しやすいように講義を工夫し解説します。また、特に理論については具体的事例などを示してイメージしやすい講義に努めます。
食品マーケティング論	オンラインでの実施であったが、事例を用いた演習を毎時間取り入れることができた。概ね好評であったため、今後もこのような機会を設けて実施していきたい。
食産業政策論	Zoomの投票機能とその結果の共有、リアルタイムコメント共有アプリ、Zoomのブレイクアウトルームによるグループワーク、資料の事前アップと講義録画のアップなど遠隔授業で試行した講義手法で学生から良かったとのコメントが多かったものについては今後の授業の中でいかに実現するかを検討する。

令和2年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食品の安全性管理	アンケート結果より、良かった点として「HACCPの授業で学んだことを改めて確認でき、より理解が深まった」、「安全性管理について豊富な知識を得ることができました。」、「様々な業界の方々の講演を聞くことができ、食についての様々な見解に触れることができた。」、「講義に加えて、外部講師として様々な企業の方々に出会えたのが楽しかったです。」などの声が聞かれたことは、実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習ができていない状況が見受けられることから、今後は、事前に企業の食の安全についての取組等を調べて講義に臨み、終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思います。また、改善点については、履修者が多いこともありFormsで出欠確認を行っていたが、記入提出できたか本人が確認できないことが課題として浮かび上がってきており、改善策を検討していきます。今後ですが、本学群の卒業生は、民間企業で品質管理の職に就くことも多いので、より実践力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張っていきたいと考えております。
食品機能開発学	アンケート結果より、良かった点として、「健康志向が高まっている中で、現代求められていることを学べた。」、「食品が持つ機能性の基礎から実際の製品まで、網羅的に学ぶことができてよかった。」、「具体的な食品がでてきてわかりやすかった。」、「個人的にも勉強になる講義でした。」などの声が聞かれたことは、食品の栄養・機能性について原理のみならず応用・実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じています。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習が若干できていない状況が見受けられることから、次年度も小テストなど取り入れて、予習復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思います。また、改善点については、履修者が多いこともありFormsで出欠確認を行っていたが、記入提出できたか本人が確認できないことが課題として浮かび上がってきており、改善策を検討します。コロナ対策についてですが、「新型コロナウイルスの情報提供や注意喚起があって良かった。」との声が聞かれる一方、「人数が多くて座学メインの講義こそ、オンラインでやった方がよいのではと感じた。」との声も上がっており、コロナ禍でも対面授業の難しさを感じた次第です。これからも一層コロナ対策を充実させて、安心安全な講義となるよう努めていきたいと考えております。
発酵食品・醸造学	<ul style="list-style-type: none"> ・板書について、順番に書いてほしいとのことであったが、本来しゃべったことすべてメモを取るのが講義ノートである。今後はすべて書かせるようにする。 ・教科書に使用について、講義で使わないなどを言っている学生諸子がいるが、予習復習で用いるものである。よって今後は予習復習のノートチェックなどを充実させ、教科書をフルに活用できるような体制を整える。 ・外部講師の講義で、後ろで弁当を食べていたり、遊んでいる学生がいる。厳しく注意したい。
動物福祉論	受講者2名の評点は、「授業計画」、「目標達成」、「授業マナー」、「関心の喚起」に関して、50点と0点であった。それ以外はほぼ50点であった。受講者の全受講科目に対する評点傾向により補正する（偏差値）必要があるかと思うが、改善の余地はある。授業計画を授業の最初により詳しく解説すること、関心の喚起に繋がる質問を多くするなどである。
水産利用学	アンケート結果より、授業改革の分かり易さ、目標到達できる内容が低値だったことは改善の余地があると考えています。本授業はフードマネジメント学類の水産食品学とほぼ同じ内容で進めていることから、学類間でこれほどの差が生じたことは反省すべき点です。本授業の履修者は水産に興味を持つ学生であることから、より応用力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張っていきたいと考えております。
水産資源学	3年後期に置かれていること、また選択科目であることから意欲的な学生の割合が高く、さらに授業のレベルを上げ、事前・事後学修も含めて学びの密度を高める努力をします。
食品企業経営論	指定テキストを単純に読むだけであれば1時間程度で予習が可能ですが、実際には30分程度しか使われていないようです。予習の段階で内容をどこまで深められるか、言い換えれば、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的企業活動の事例に適用できるかが問われる科目です。経済学と経営学の違いを1/2年のうちにしっかりと理解した上で受講して下さい。授業の最初の30分程度は学生からの前回授業に対するコメントや質問に答える形で「講義内復習」を実施していますが、そこで述べる教員のコメントは聞きやすく良いモノばかりではないことを理解して頂きたいと思います。それは決して履修者個人に対するものではなく、出された意見に対する厳しい批判という形を取ることもあります。自らの意見を好意的に批判されることも少しずつ慣れていってほしいと思います。事前にしっかりと予習してきた学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメントでは内容やレベルに大きな違いがありますので、2021年度はそこを踏まえて、こちらも誤解を招かぬよう丁寧に対応したいと思います。
食品化学	2020年度はコロナ禍での実施ということで遠隔で講義を行い互いに不慣れなところもあったが、担当教員の努力と学生の協力によりほぼ円滑に講義を行うことができた。事前・事後学習の設定、試験（成績評価）の方法など、適切な分量となるよう改善を図る必要がある。
品質保証システム演習	<p>本演習は、集中講義方式での実施となった。また、新型コロナウイルス感染症に対応して例年とは違った実施方式を取った。まずは、集合方式による、対面講義をWeb会議方式にした。また、グループワークも学生同士の接触を控える目的で、各グループごとのWeb会議方式で実施した。また、プレゼンも同様で、Web会議方式での実施となった。</p> <p>2020年度は、やや特殊な環境下での演習実施となったが、内容的には例年と同様であった。食品の製造工程における危害分析は、各現場の状況ごとに想定する必要がある。演習の中では、各グループが実際の現場の様子をできるだけ具体的に想定しながらの実施が求められる。現在、例としていくつかの具体的な例をDVD等映像資料で準備している。これらを有効活用しながら、授業を展開する予定である。なお、例年行ってきた対面での意見交換なども、状況が整えば再開したい。</p>
フードサービス産業論	外食や中食はアルバイトなどで身近であり、食に興味のある食産業学群の学生にとっては履修したい科目であると思われる。アンケートのほぼすべての項目で平均値を上回って推移していることから授業の進行については余り問題視していない。ただ、授業外の学修時間だけが平均値以下になっており、中間テストなどの工夫を行っているが芳しくない。今後は、事前・事後学修の確認を毎時間するような工夫をしていきたい。
食品マーケティング演習	遠隔での授業であったが、学生側が主体的・能動的に授業に参加できるように毎回デスカッション課題について議論させた。今後も多方面で学生の能力を引き出せるように工夫して実施していきたい。
食品企業経営戦略演習	前週に配布する教材を各自が事前に予習して参加するため、必然的に予習時間は一定量が必要になります。また、翌週の課題をこなすためには前週の課題をしっかりと理解していることが前提となるため、復習も兼ねることになり、結局、毎回毎回の積み重ねを十分に要求される授業です。クラス規模は概ね適正であり、ほぼ全員が複数回の発言を求められます。標準的な準備を行う学生はこのクラスを終了した段階で概ね大学ノート1冊を終了することが多いので、このレベルを維持していく予定です。2021年度後期も可能な限りこの演習は対面型で実施する予定です。遠隔になっても基本、やることは同じです。

令和2年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
食品経済・政策論演習	最新のフードシステムや食料経済に関する情報を踏まえるため、教材にその年の『食料・農業・農村白書』『食育白書』などを用いている。それらの必要部分のすべて読みこなすことで、フードシステムの全体像をマスターできるように考えているところである。共同学習を促進する観点から、グループに分けて担当を決めているが、残念ながら、自分の担当以外は読んでこない学生が多いようだ。事前学習として、担当以外の部分も読んでくることが大切で、それによって授業における質疑についても適切に実施できるのだが、このことが全く出来ていない。授業は教員から教わるものということが前提であるかだと考えられる。発表とその時の質疑により成績を判断しているが、授業への参加を促す仕組みと、その参加度合いなどの評価など基準を考える必要があると思う。
水産食品学	アンケート結果より、良かった点として「主に宮城県の水産事情などについて知ることができ、非常に面白かった。」、「興味を抱きやすい内容から講義が始まり、いつもどんな内容か楽しみになった。」、「PowerPointでの講義資料だけではなく動画を多く用いたり、企業の方をお呼びして講義を行っていたのが非常に良かったです。」、「外部講師の講義が興味深かったので、良かったと思う。」などの声が聞かれたことは、水産物の加工特性や加工法について原理や応用のみならず、宮城県、日本、そして世界での水産業・水産加工業の現状や展望についても理解していただけたので、本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習が若干できていない状況が見受けられることから、事前に水産加工の製法等について調べて講義に臨み、終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思えます。また、改善点として、出席票のformsが感染対策として評価されている一方、出席キーが毎回日付だと、講義に参加していない人でも出席したことになるので、それを改善した方が良いのではないかとの意見が出たことから、本点については見直して参ります。本学類の卒業生は、地元宮城を中心に民間企業で水産加工品の開発職に就くことも多いので、より応用力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張っていきたいと考えております。
食品工学	食品の製造技術に関して工学的な視点で学ぶための科目であり、操作単位毎に授業を行った。スライド資料による講義形式を主体として、科学現象などに関しては動画などを用いてわかりやすく講義することに努めた。講義内容は専門的であり、高校で物理や化学を受験科目としなかった学生には難易度が高いことが傾向としてあるため、原理よりも現象や応用を重視し、関心を持つような講義に努めた。
食品栄養・機能学実験	サイエンスコース必修の実験実習で履修人数が増え、今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、実験室立入人数の制限があったため、別フロア2実験室での同時実習となった。蜜になることが想定される工程では、事前の材料分注や順番制にすることより、学生の密集を避けて安全に実習を進めることができた。動物飼育室が狭いことや教員がフロア間を頻繁に移動しなければならないなどやむを得ない不便はあったが、問題なく実習を行うことができた。2実験室に分かれての実習であったため、実習開始前に1つの教室で全員に説明・解説をより詳しく行い、それにより理解が深まったとのコメントもあった。今年度を実施した感染予防に留意した実習のあり方をもとに、今後さらに安全で効果的な実験実習が行えるよう検討したいと考える。
食品化学実験	予習が不十分であったので、試薬調製やレポートの書き方などができていない。 予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。 オムニバスで各教員間で差があるとの指摘もあった。来年度以降は、より実践の研究に近い高度な実験を行うように改善する。
グローバルフードシステム論	グローバルフードシステム論では、まず国際貿易の経済理論についての学修をしてもらう必要がある、その理論の枢要が「比較優位理論」であり、さらにそれを一般化した「ヘクシャーオーリンの定理」である。これらは公務員試験に頻出のものなので、理解し問題が解けるまでに習熟する必要がある、またそのレベルにまで上げるよう授業では工夫している。本来であれば、時間外学修として復習することが期待されるのだが、昨年同様に全学レベルを大きく下回った時間外学修時間となってしまった。概念の学習なので、定着するにはそれなりの時間外学習が必要だが、学び手時に之を習うような、時間的熟成を要するのが概念の学習である。それゆえ、復習を意識していないのかもしれない。このことへの対策としては、授業ごとに「宿題」や「課題」を課したり、時間ごとに小テストをするなど、時間外学習の時間を確認できるような措置も導入することががなが得られるが、それは概念の学習方法ではない。概念から湧く「理論」についての応用は、日常茶飯の出来事の中で確認することで確認できるもので、そうした時間も合わせて大切にしたいと考えたい。
調理科学	アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。 小テスト・質問などを共有し、双方向な授業を引き続き実施する。
科学基礎実験	2020年度はコロナ禍での実施ということで変則的な部分も多かったが、担当教員の努力と学生の協力により過不足なく実験実習を行うことができた。通常は1実験台あたり7、8人の配置で実験をおこなっているが、今年度は3密を避けるために1実験台4人で対応することとなった。しかしこれにより一人一人が手技を行う機会が増え、理解度が増すといったの良い傾向も見られたことから今後の参考にしたい。改善したほうが良い点では、2年次ではなく、1年次に開講してほしいとの要望があった。また、生物分野において家庭学習を取り入れたことが負担になったとの感想がみられた。コロナ対応のため開講時間を短縮せざるを得なかったことから、長期間の観察は持ち帰りとなったが、本来は大学で実施するものであり、今年度は特別な対応を迫られたためであるが、次年度からは考慮したい。
生物生産環境学実験	・現在は生産環境の管理や解析を扱う内容（伊吹、5回）、集中講義形式で植生調査（金子（非常勤）集中講義形式で5回相当）、機械学習を含むデータ解析を実施する内容(後藤、5回)で構成されています。 ・昨年度は新規担当教員体制およびコロナ禍での実施となり、学生へのフォローを手厚く実施した部分がありました。それでも多岐にわたる講義内容を扱っていましたが、受講生は苦勞した様子でした。その他、コロナ対策もあり、あえてグループ内でのディスカッションなどは避けておりました。今年度は各回の内容が深く関連性を持つような形に修正するとともに、グループディスカッションを取り入れます。以上の修正により、受講毎に理解が深まり充実感が得られるような構成へと修正を行います。（伊吹） ・一部内容が学生にとっては難解な箇所が見受けられたため、その箇所については今年度は教員によるデモンストレーションに留めることとした。これにより、内容の連続性を維持しつつ、学生が実質的に取り組む内容の簡易化を図ることとした。（後藤）
植物性食材生産実験実習Ⅰ	・コロナ感染症拡大防止のため後期で実施したため内容を変更せざるを得なかった。次年度は原則対面で行うので、感染症対策を十分に行い、実施していきたい。 ・teams等を活用し、より効率的に学修できるよう進めていきたい。
動物性食材生産実験実習Ⅰ	COVI19の感染拡大が続く中での、シラバス通りを実施することは困難であることから、次年度以降も状況を考慮しながらの開講となる。関連する講義を踏まえ、十分な知識をもって実習に臨んでもらうことを望む。また、実習の目的や主旨を十分に理解し、意欲的に取り組み、評価に値する十分な内容のレポート作成を期待する。

令和2年度後期 授業改善計画（食産業学群）

科目名	授業改善計画
動物生産基礎実験Ⅱ	コロナに配慮しつつ、十分な教育成果をあげられるよう工夫する。
食品衛生学実験	<p>2020年度に関しては、新型コロナウイルス感染症対策として、スペースの確保などに留意して実験を実施した。また、実験室も2倍として、対策を行った。受講者の数にも依るが、大変余裕のある展開が可能であったため、次年度以降も本年度の実施方式を続けたい。また、データのやり取りについては、グループウェアを導入し、これも効率的に運用できた。</p> <p>本実験の内容に関しては、今年度参加した学生の積極的な参加と十分な学習により充実したものとなった。参加した学生には、今後の学習に関しても本実験科目と同様に積極的な取り組みを続けてもらいたい。実験の組み立てとしては、食品製造の現場で実施されている内容をコンパクトにまとめたものとなっており、この内容を十分に理解した上で、実験の望んだのであれば、実際の現場においても必ず役に立つ内容となっている。次年度以降も基本的にこの内容で実験を進める。ただし、一部の工程で、ガラス器具が足りない、損傷が激しく使用に耐えない、などの不都合が発生したので、この部分に関しては、事前に十分に整備することとする。また、マニュアル類についても一部の条件について訂正箇所などがあったため、新たに更新する。</p>